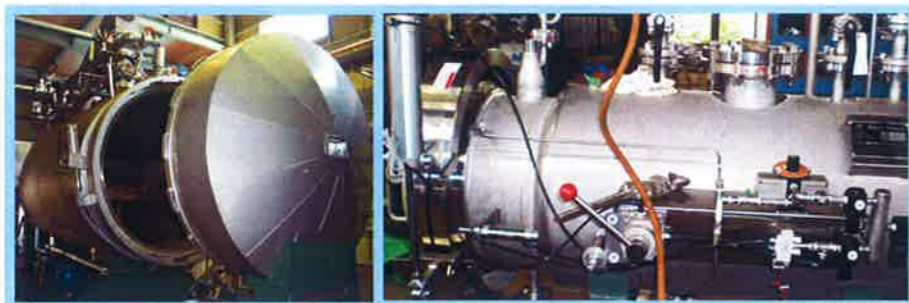


「HY-200/5000/10000/15000主仕様」

型式	HY-200J	HY-5000J	HY-10000J	HY-15000J
実効容量 (L)	200	5,000	10,000	15,000
処理能力 (L/バッチ)	100	2,500	5,000	7,500
消費電力 (kw/h)	10	30	50	70
使用圧力 (Mp)	MAX 3.0			
使用温度 (°C)	MAX 230			
装置構成	加水分解槽 (ジャケット付) 1台 乾留ボイラー 1台 熱媒ボイラー 1台			
加熱、加圧方式	蒸気、外熱併用			

※生成物を燃料とするボイラーの使用も用意しています。
 ※容量につきましては、お客様と相談の上、最適なものを設計、製造致します。
 ※詳細に関しては、お問合せ願います。
 ※前処理装置は別見積りとなります。



営業品目

- 廃プラスチック油化装置の製造販売
- 廃油改質装置の製造販売
- 廃食油改質装置の製造販売
- 農業用廃プラスチック乾式処理装置の製造販売
- 廃タイヤ油化装置の製造販売
- 加水分解乾燥装置の製造販売
- 未利用資源再資源化装置及びシステムの開発製造販売
その他関連装置及びシステムの製造販売

※性能向上の為、仕様は予告なく変更する場合があります。

開発 製造

代理店

 株式会社伸光テクノス

本社 〒491-0043
 愛知県一宮市真清田1丁目1-20
 [TEL] 0586-28-9461 [FAX] 0586-24-4502
 URL <http://www.shinko-mfg.co.jp>
 E-mail info@shinko-mfg.co.jp

SE1001

CATALOG

CATALOG

NEXT GENERATION SYSTEM
 未利用資源の適正処理と再資源化を実現

加水分解乾燥装置

HY-200/5000/10000/15000



 株式会社伸光テクノス

環境にやさしい ― 循環型社会の実現に 未利用資源の適正処理と再資源化の実現に、加水分解乾燥装置 HY-200/5000/10000/15000

概要

■ 加水分解処理とは

原料を圧力容器中で高温・高圧水蒸気 (MAX230℃、3Mp) と反応させる (加水分解反応) ことにより、処理反応時間約 30 分で無菌且つ有用な反応生成物を得る処理方法です。
更に同一装置内で乾燥処理も行えます。

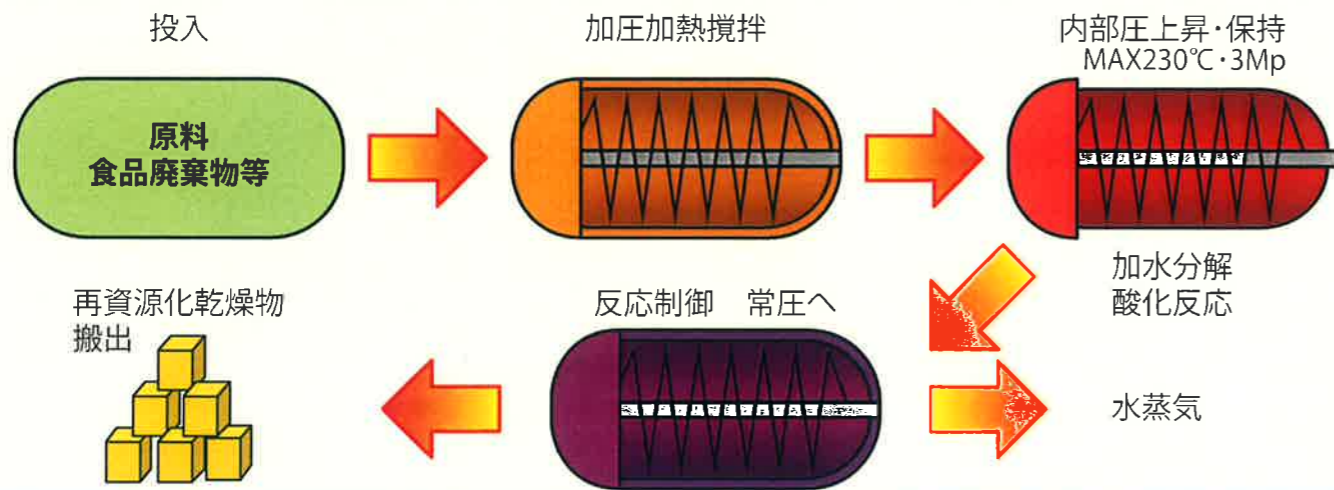
■ 圧力容器内での反応

原料を投入した圧力容器内では、高温・高圧水蒸気と原料が反応します。原料の高分子に分子状の水が反応し、低分子に分解します。この反応を加水分解反応と呼びます。
230℃、3Mpの水蒸気に含まれる水分子は、加水分解反応を極めて起こしやすい状態になっています。このため、原料中の有機物を速やかに分解します。



分解反応が進めば、最終的には構成単位まで分解します。
例 蛋白質 → ペプチド → アミノ酸

処理工程概要



多目的にご利用頂くために

加水分解装置は新しい技術です。使用範囲が限定されておりません。様々な分野にご利用頂く為に、弊社では、実験装置を用いて実証実験を行っております。実証実験により、加水分解反応時間、反応温度、反応圧力等が明確になり、より具体的な検討が可能となります。現在、医療廃棄物、食品残渣、野菜クズ、水産加工品残渣等で実証実験から実用化に至っております。また、原料の前処理、反応生成物の有効活用までトータルなご提案が可能となります。福島で放射線除去の実証実験にも使用されました。都市ゴミを処理する事により燃料化し、石炭の代替燃料としての使用も始まっており、今後の活用が期待されています。

加水分解乾燥装置の特長

経済性



環境負荷の軽減

原料を加水分解処理し、化学反応熱と間接加熱 (ジャケット式) で乾燥し再資源化することで、循環型社会への実現に寄与します。

■ 多種多様な未利用資源 (廃棄物) の処理に対応出来ます。

〔処理対象原料〕
家畜糞尿系: 鶏糞・牛糞・豚糞
生ゴミ系: 食品加工残渣 (コンビニ弁当・廃野菜・廃果実・廃魚肉・廃畜肉等)
農産物系: 廃野菜・廃果実
水産物系: 廃魚・魚加工残渣
木質系: 建設廃木材・間伐材・剪定材・製材所端残材
その他: 高含水率バイオマス

■ 短時間での処理が可能となります。

加水分解反応速度は160℃から加速され、200℃を超えるとピークに達します。細菌を用いた通常温度の反応では、分解に長い時間を必要とします。しかし、加水分解乾燥装置では、約30分程度で反応が完了します。

■ 環境にやさしい処理方法です。

焼却・乾燥・脱水・水処理等の処理方法と比べ、有機物の加水分解反応は、溶媒として「水」を使用するため、処理法によりダイオキシンやNOXの発生も抑えることができ、環境にやさしい処理方法です。

■ 良質な有機肥料や固形燃料を短時間で製造します。

加水分解は他の方法に比べ、遥かに短時間で優良な有機肥料や固形燃料を製造することが可能です。

現状の資源化方法の比較

種類	炭化	コンポスト	バイオガス	従来型乾燥	Rare Steam
概要	原料を加熱する事により、原料中の水分及び揮発分を除去する。	微生物の働きにより原料を発酵し、堆肥を製造する。	微生物の働きにより原料中の有機物をメタンガス等に変換する。	原料を加熱する事により、原料中の水分を除去する。	原料を加圧、加熱攪拌する事により、原料と水分を反応させ有用な生成物を製造する
生成物	炭化物	堆肥	可燃ガス	肥料・飼料	液体肥料・肥料・飼料・固体燃料
用途	土壌改良剤・燃料 脱臭剤・融雪剤 肥料・調質材	肥料	燃料	肥料 飼料	液体肥料 肥料 飼料 燃料
特徴	炭化路炉及び排ガス処理設備により構成される。	製品の水分・pH・管理が重要 施設の脱臭対策が重要 発酵日数により異なるが、大容量の設備となる	大容量の発酵タンクが必要 ガス化される11物質の処理が必要	乾燥機及び脱臭設備より構成される。	本体・廃熱回収・脱臭設備より構成される。
	炭として幅広い用途	需要量に季節変動がある。 臭気が残る。	燃料として発電・熱供給が可能。	需要量に季節変動がある。 製品により臭気がある。 製品により燃料として有効	飼料として有効 肥料として有効 高付加価値の飼料が可能 石炭代替品として有効

※脱塩素について
塩ビ等塩素化合物の前処理が可能です。